

第10回 日韓沿岸技術 研究ワークショップ



一般財団法人 沿岸技術研究センター
研究主幹 井山 繁

はじめに

日本と韓国の4団体（韓国海洋科学技術院（KIOST）、港湾空港技術研究所（PARI）、一般財団法人沿岸技術研究センター（CDIT）、および一般財団法人みなと総合研究財団（WAVE））は、沿岸技術についての研究発表および意見交換を行うため、2013年より年1回、「日韓沿岸技術研究ワークショップ」を開催しています。

日韓沿岸技術研究ワークショップは、昨年の韓国・釜山での開催に引き続き、今年は第10回の節目の会として東京で開催されました。日本からは、PARI河合所長、CDIT宮崎理事長、WAVE津田理事長をはじめ、各セッションの発表者等が参加し、韓国側と合わせて50名以上の参加があり、活発な議論がなされました。

ワークショップ

ワークショップは東京・竹芝のホテルで12月5日（木）午前10時より開始され、冒頭のWAVE津田理事長からの開会挨拶の後、韓国KIOSTの張本部長より来賓挨拶がありました。

続いて、港空研の河合所長より「港湾空港技術研究所における地震災害の軽減に関する研究」と題した基調講演において、令和6年の能登半島地震に関する研究や地震災害の軽減に関する研究が紹介されました。その後、沿岸域管理をテーマとしたセッション1に続き、特別講演として、韓国KIOSTのユン責任研究員から「海砂の塩分除去のための超音波適用技術」の講演がありました。



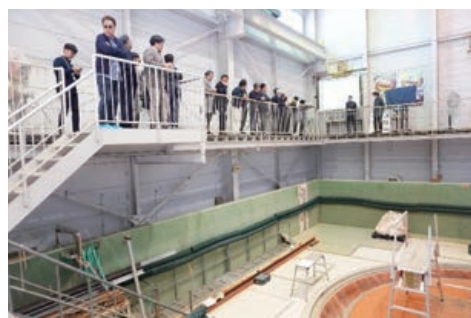
ワークショップ 集合写真

また、午後からは、新技術、沿岸災害と対応、沿岸環境の3つのセッションが行われ、各機関における研究内容についての発表が行われました。日本側からは、各機関より8つの研究発表が行われ、それぞれの発表に対して日韓双方からの活発な質疑応答が行われました。

最後に、CDIT宮崎理事長から、閉会挨拶として今後のワークショップの継続と両国のますますの協力関係の推進が呼びかけられ、ワークショップが終了となりました。

現地視察会

ワークショップの翌日（12月6日）には港湾空港技術研究所や横浜港の周辺を巡る現地視察会が行われました。港湾空港技術研究所では大規模波動地盤総合水路、長期暴露試験施設等を見学し、港空研の担当者から詳細な説明がありました。KIOSTから参加の方々は興味深く説明に耳を傾け、質問されるなどして訪問最終日を過ごしました。



港湾空港技術研究所 訪問

おわりに

開催にあたり、PARI、CDIT、WAVEおよびKIOSTの担当者がweb会議で複数回の打合せを行い、ワークショップの内容や発表資料等について調整を行いました。事前の準備により、ワークショップでは熱心な議論がなされ、3日間の充実した日程が組まれました。

また、韓国からご参加頂いたKIOSTの張本部長や安顧問をはじめご参加、ご協力頂いた皆様に改めて感謝致します。